

全国学力・学習状況調査の結果

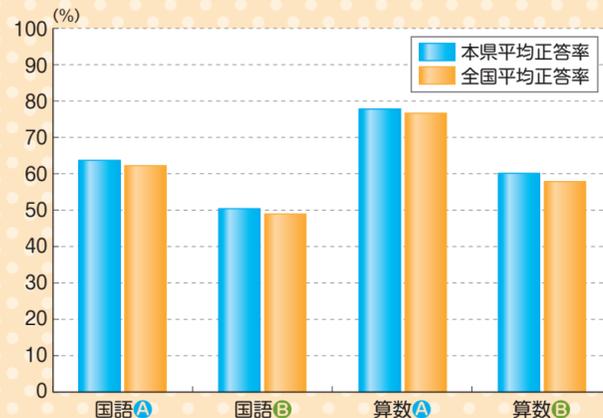
本年度は、県内の全小中学校と特別支援学校（小学部・中学部）を対象に実施され、修学旅行等で後日実施した6校を除く、192校が、4月24日に調査を行いました。



教科の調査 国語、算数・数学

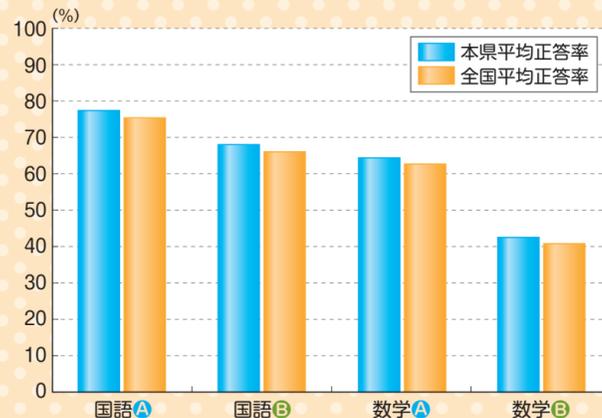
- A 知識を問う問題
- B 知識をもとに活用する力を問う問題

小学校6年	国語A	国語B	算数A	算数B
本県平均正答率	63.9	50.4	78.1	60.2
全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4



全ての教科で、本県の平均正答率が全国を上回っています。特に算数B[活用]は、全国平均が下がる中で本県は大きく上昇しました。
(国語では「目的や意図に応じて自分の考えを記述する力」、算数では「割合」「小数の足し算」などに課題が見られます。)

中学校3年	国語A	国語B	数学A	数学B
本県平均正答率	77.6	68.6	64.8	43.0
全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5



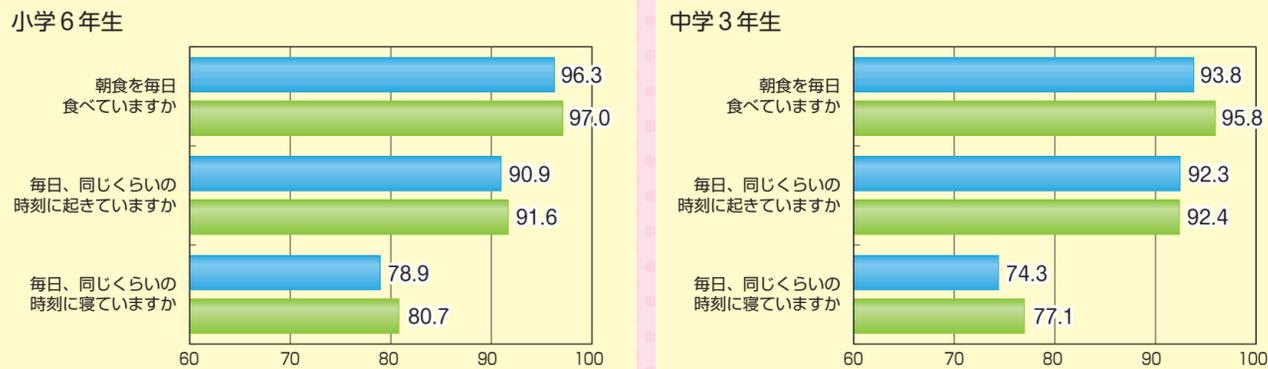
全ての教科で、本県の平均正答率が全国を上回っています。
(国語では「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」、数学では「数量の関係や法則などを文字式で表すこと」などに課題が見られます。)

質問紙調査

児童生徒の生活習慣や学習習慣・学習意欲

生活習慣(朝食、起床・就寝時刻)

■ 全国 ■ 鳥取県



「朝食を毎日食べていますか」という質問に、平成25年度の本県児童生徒の肯定的な回答(「している」と「どちらかというとしている」を合わせた数)は、小学校6年生で97.0%(全国96.3%)、中学校3年生で95.8%(全国93.8%)。また、「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」という質問に、肯定的な回答は、小学校6年生で91.6%(全国90.9%)、中学校3年生で92.4%(全国92.3%)で、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」という質問に対しても、肯定的な回答は、小学校6年生で80.7%(全国78.9%)、中学校3年生で77.1%(全国74.3%)でした。朝食、起床・就寝時刻といった基本的な生活習慣の定着については、今年度も全国平均以上であり、引き続き良い傾向にあります。

学習習慣(宿題・復習)

■ 鳥取県 ■ 全国

家で、学校の宿題をしている(H23は中止)



家で、学校の授業の復習をしている(H23は中止)



「家で、学校の宿題をしている」という質問に、平成25年度の本県児童生徒の肯定的な回答(「している」と「どちらかというとしている」を合わせた数)は、小学校6年生で96.9%(全国96.4%)、中学校3年生で89.5%(全国86.8%)でした。

また、「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に、肯定的な回答は、小学校6年生で56.1%(全国51.4%)、中学校3年生で45.2%(全国48.6%)でした。

調査が始まった頃と比較すると、「宿題をする」「復習をする」児童生徒が年々増えてきましたが、復習については、まだ十分に取組めていないことがわかります。

学習意欲・夢や目標

■ 当てはまる ■ 当てはまらない ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

将来の夢や目標を持っている(H23は中止)



平成25年度 肯定的回答 (%)	小学6年生		中学3年生	
	鳥取県	全国	鳥取県	全国
国語の勉強は好きですか	58.5	57.6	57.2	57.7
算数(数学)の勉強は好きですか	65.0	66.2	52.1	55.5

「将来の夢や目標を持っている」という質問に、平成25年度の本県児童生徒の肯定的な回答(「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」を合わせた数)は、小学校6年生で85.3%(全国87.7%)、中学校3年生で70.9%(全国73.5%)でした。また、「国語・算数(数学)の勉強は好き」といった学習意欲に関する質問についても、全国平均よりも低くなっているものがあり、子どもたちの学習意欲を喚起するような授業改革や夢や憧れを子どもたちが持てるような取組を、学校・家庭・地域で協力して行っていく必要があります。

本年度調査問題 算数A から「一万の位(くらい)までの概数を求める問題 対象学年:第4学年以上」

問題2

四捨五入して一万の位までのがい数にしたとき、20000になる整数を、下の①から⑤までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。(正答率:鳥取63.2%、全国60.2%)

- ① 14500 ② 15000 ③ 19500 ④ 24999 ⑤ 25000 【正解は、②・③・④】

この問題は、一万の位までの概数を求めるので、一万の位の次の千の位の数に着目して四捨五入をします。正答率のみに注目していると、四捨五入そのものの理解に課題があるように思えますが、子どもたちの誤答の例をみると、

- ① 14500 では、まず、百の位を四捨五入して→15000に、次に千の位を四捨五入して→20000
④ 24999 では、まず、百の位を四捨五入して→25000に、次に千の位を四捨五入して→30000

といった「着目する位」を間違えて、2度四捨五入をしている様子が見られます。

つまり、この誤答の例から、四捨五入そのものの理解はできていると考えられるので、指導のポイントは、概数にする場合の「着目する位」であることがわかります。

☆正答率ばかりに注目していると、子どもたちが何を理解していて、何を理解していないかを見失うことにもなりかねません。学校・家庭でも、上の例のように誤答などから子どもの理解度をしっかりと把握し、適切なアドバイスを与えることが大切です!